シリーズ「つしまさいこう」⑥

※パラダイムシフト：「認識のしかた」や「考え方」・「常識」・「旧態依然とした考え方」などが劇的に変化すること

皆さんには左の絵は何に見えますか？

帽子を被り右を向いた髪の長い少女？
それとも、右を向いた目・鼻の大きな老婆？

1枚の絵ですが、見方によって見え方が変わってきます。
ポイントは「ものの見方」。
私たちは、日常生活の中においても環境・経験などによって「条件づけ」されて物事を見ているのです。

若者の島外流出や歯止めがかからない少子高齢化、減り続ける水産資源…、私たちの目前には問題が山積しています。
これらの問題に対する、私たちの**「ものの見方」**は「条件づけ」されていないでしょうか？
「離島だからしょうがないもんね…」「壱岐の人たちは商売が上手だけど…」
「何をやっても変わらんけん…」

世界的不況や東日本大震災などの影響を受け、これまでの価値観が大きく変化しようとしている今、「かけがえのない対馬」を次の世代につないでいくために、私たちは今こそ「ものの見方」を変える良い機会かもしれません。

そんな時、対馬の外から冷静に対馬を見ることができる「ものの見方」を持った5人の若者が来島しました。
その名も**「対馬市 島おこし協働隊」**。

今月の「つしまさいこう」は、対馬に生まれ対馬に育った私たちが見つけられなかった「新たな対馬の価値」を探り、私たちには見えなかった新しい「ものの見方」で挑戦する彼らを紹介します。

生物多様性保全担当

○絶滅が危惧されるツシマヤマネコ、対州馬をはじめとする自然資源の保全活動。
特に、「種の保全に資するための活用方法」を検討し、産業振興・
雇用創出に結びつくような施策の企画立案・連絡調整を行う。

青森県青森市出身
○北海道大学大学院環境科学院博士後期課程修了
○日本学術振興会特別研究員
○東北大学大学院生命科学研究科特別研究員

木村　幹子（きむら　もとこ）

自然と共生できる「対馬」は求めていたフィールド

「生物多様性＝希少生物の保護」って思われている方が多いと思いますが、一言で表すと「自然の恵み」のことです。対馬の皆さんはその「自然の恵み」を受け「生命力」がとても強いです。自分が食べるものを田畑で栽培し、鶏を飼い、海に出て魚を獲る…。都会人が失っている「生命力」の強さは対馬の「強み」ですし、「大きな魅力」ですね。子ども達にもその「力」を受け継げるようなプログラムにも取り組みたいですね。

レザークラフトで島おこし担当

○有害鳥獣（イノシシ、シカ）の有効活用に関する企画立案
○皮革製品の商品化・ブランド化の事業可能性調査、皮革製品の試験的製作・販売
○皮革文化の普及啓発活動の企画

山下　遼（やました　りょう）

有害鳥獣を有効資源に

神奈川県横浜市出身
○専門学校ESPミュージカルアカデミー
ギタークラフト研究科卒

以前から田舎暮らし、特に「島暮らし」にあこがれていました。自分で魚を釣って食べる、これって対馬の人には何気ないことでしょうが、都会育ちの自分には感動のレベルが違うんですよ。

対馬の人を困らせているイノシシやシカの革で製品を生み出し、「有害鳥獣」が「資源」に変わればいいなって思ってやってきました。自分が来てから実際にはゼロからのスタートで、猟師さんにイノシシ皮の剥ぎ方を教わる事から始まり、生き物の命を使ってものづくりをするという事を強く意識するようになりました。

「協働隊」という名前のとおり、地元ハンターさん達と協力してこの問題に取り組んでいきたいです。

島デザイナー

○埋もれた資源の魅力発掘と活用方法の企画立案
○特産品・商品開発を行う上でのデザイン・プロデュース支援
○島の美しい農山漁村景観の保全・形成・活用デザイン

松野　由起子（まつの　ゆきこ）

東京都台東区出身
○多摩美術大学絵画科油画専攻卒
○「消しゴムはんこインストラクター」として作家・インストラクター活動

対馬に着いたら、まず「深呼吸」！

私が友人を対馬に招待したら「まず深呼吸して」って言っちゃうくらい空気がきれいですね。「何もない」って対馬の人は言うけど「都会にあるもの」を都会人は求めていないんです。おばあちゃんが手でこねたおまんじゅうだとか、自宅の畑で採れた野菜だとか対馬の人が日常食べてるものが一番美味しいって思います。

対馬を訪れる都会人が求めてるものってこういうものだと思うんですよ。

村田さんの翻訳でリニューアルした英語版対馬市ホームページ

松野さんデザインのポロシャツ

東京都武蔵野市出身
○アメリカ　デンバー大学芸術学部卒（芸術学・経営学を専攻）

村田　真耶（むらた　まや）

英語圏にも対馬を広めていきたい

対馬に来た当初、関わってくれた人達があまりにも親切なので正直戸惑いました。道ですれ違う子ども達が笑顔で挨拶してくれたこともすごくうれしかったです。

現在、市のホームページの翻訳や英語のパンフレットの制作を行っています。また、11月開催の朝鮮通信使200周年のイベントに併せ、今、「対馬アートファンタジアキックオフ事業」のコーディネートも行っています。高校・大学とアメリカで学んできたスキルを活かして対馬を世界中に発信していきたいと思います。

薬草で島おこし担当

○山草野草の調査研究、採取、薬草リストの作成

東京都八王子市出身
○東京大学大学院理学系研究科博士課程修了
○健康食品のOEMメーカーで新商品の企画・開発を担当

須澤　佳子（すざわ　けいこ）

対馬の人が対馬のことを知ることが何より大切

「地方が自活できるようにならないと日本が元気にならない」と常々感じていました。一次産業に従事する方が努力に見合う報酬を得られるしくみづくりを目指そうと思い、対馬移住を決意しました。

薬草で対馬の可能性を広げることが仕事だと言われていましたが、対馬に来て、薬草だけでなくたくさんの海や山の資源が眠っていることに驚きました。それらを適正な値段で売っていくためにも、まずは対馬の知名度を上げ、「対馬」というブランドを確立することが必要です。そのためには対馬の人自身が対馬の良いところ・悪いところをちゃんと「知る」ことが第1歩だと思います。ハコモノはもう十分揃っていると感じます。住んでいる人の気持ちや今ある施設の活用法などの「ソフト面」を強くすれば、何倍も何十倍も「対馬」は元気になれるはずです。

日本人が刻んできた歴史を振り返ってみると、時代の大きな転換期には「外からの何か」が大きく影響しています。

「稲作伝来」による支配階級の誕生
「鉄砲伝来」による戦国時代の終焉
「黒船来航」による近代国家への転身

私たちは「自分自身で変化し、新たなものを創造する」ことが不得手な一方、「外からの影響に反応し、発展させていく」ことには長けています。

他者の意見を取り入れ自分たちがこれまで培ってきた経験や常識を変えることは決して簡単なことではなく、痛みを伴うかもしれません。しかし、状況を改善したければ、自分たちが変わるしかないのです。

チャールズ・ダーウィンの進化論の一節にはこうあります。

「環境変化の本質に的確に適応し、進化し続けるものだけが生き残る」

他のどこにもまねのできない「誇り高き孤高の島」へ進化していきましょう。